

2019年11月5日

長崎県知事 中村法道様

石木ダム建設に反対する川棚町民の会 代表 炭谷 猛
石木川の清流とホテルを守る市民の会 事務局長 田代圭介
石木川の清流を守り川棚川の治水を考える町民の会 代表 森田正昭
石木川まもり隊 代表 松本美智恵
水問題を考える市民の会 代表代行 篠崎義彦
いしきを学ぶ会 実行委員 森下浩史

代表連絡先 川棚町岩屋郷 903 炭谷 猛
電話 090-4519-2528 FAX 020-4668-3744

土木部河川課・浦瀬俊郎課長の「追い風」発言に関する抗議文

11月2日付け毎日新聞の記事によると、先月30日の川棚町でのダム建設推進派の県議でつくる「石木ダム建設推進議員協議会」の意見交換会の席上、河川課の浦瀬俊郎課長が「災害は我々にとって追い風」と発言していたことが分かりました。浦瀬課長は「自然災害が多発する中、一日も早く石木ダムを含め整備を進めていく必要があるという趣旨だった」と説明したとありますが、発言自体は撤回していません。

この発言は、台風19号による被害など全国各地で発生している災害を自らに有利な状況ととらえ、目的の失われたダム建設を強行しようとする認識の表れであり、未だ災害に苦しむ全国の被災者を愚弄するものです。私たちはこの発言に、怒りを禁じえません。これは、浦瀬課長の問題にとどまるのではなく、貴職や土木部河川課職員に共通する、住民・県民の意見を聞こうとしない「石木ダム建設事業推進」を前提とした姿勢から生み出されたものであることは明らかです。私たちは、この発言に強く抗議するとともに、下記事項を申し入れます。

記

1. 浦瀬課長がこのような発言をしたことについて、発言を撤回させ、全国の水害被災者を始めとする国民に向けて謝罪会見をすること
2. また、その謝罪会見の中で「石木ダム建設事業推進」を前提とした姿勢を改めることを表明すること

以上

1/2
毎日

「災害は我々に追い風」

石木ダム意見交換会で県課長

県と佐世保市が川棚町に建設を進める石木ダム事業をめぐり、先月30日にダム建設推進派の県議らが開催した意見交換会で、県河川

課の浦瀬俊郎課長が

「災害は我々にとって追い風」と発言していたことが出席者への取材で分かった。

浦瀬氏は、毎日新聞の取材に発言を認め、「自然災害が多発する中、一日も早く石木ダムを含め整備を進めていく必要があるという趣旨だった」と説明した。

石木ダムを巡っては、水没予定地内で暮らす13世帯約50人の家

屋などの明け渡し期限が18日に迫る。中村法道知事は話し合いを通じて事業に理解を求める考えを示している。

県議、佐世保市議、川棚町議計33人の意見交換会は冒頭を除き非公開。複数の出席者によると、浦瀬氏の発言は議員らとのやりとりの中であり、その場でもたしなめる声が出たという。

出席したある議員は「ダムは必要だが、台風19号などで多くの死者が出て、避難生活を強いられている人たちがいる中では軽率だ」

と指摘した。

浦瀬氏は「長崎大水害後にも理解をいただいて、かなりの方に（河川整備のための）移転をしてもらっている。そうした観点から発言した」としている。

【浅野翔太郎】